

ヘリコバクターピロリ感染性胃炎（ピロリ菌感染症）

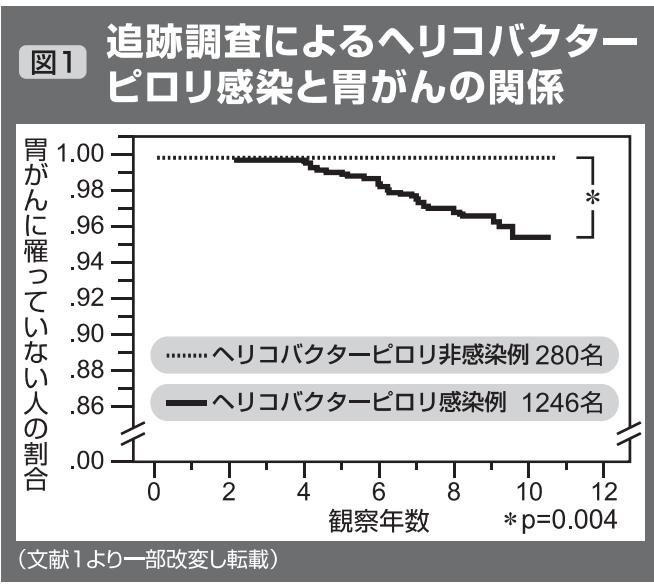
ピロリ菌と病的意味

胃に生息可能な細菌であり胃の様々な病気の発生に深く関わっています。感染経路はよくわかっていませんが1955年くらいまでの良好といえない環境で育った世代で感染者が多く、上下水道などの衛生環境が大きな原因と考えられています。幼少期に感染し自然に消えることはなくピロリ菌を殺菌治療（除菌といいますが）しないかぎり一生胃に住み続けると考えられています。

ピロリ菌感染症と除菌の意義

胃にピロリ菌が感染すると胃炎が発症します。慢性胃炎は自然治癒せず長い間胃の正常細胞にダメージを与え続けます。喫煙や塩分過剰摂取などの習慣などが重なり、慢性胃潰瘍や更には胃がんの発生にも関わると考えられています。胃がんとピロリ菌感染の関わりについては、厳密に判定されたヘリコバクターピロリ非感染者と感染者を平均8年間追跡したところ、感染者では2・9%に胃がんが発症し、非感染者には胃がんの発生を認めなかったという報告があります。

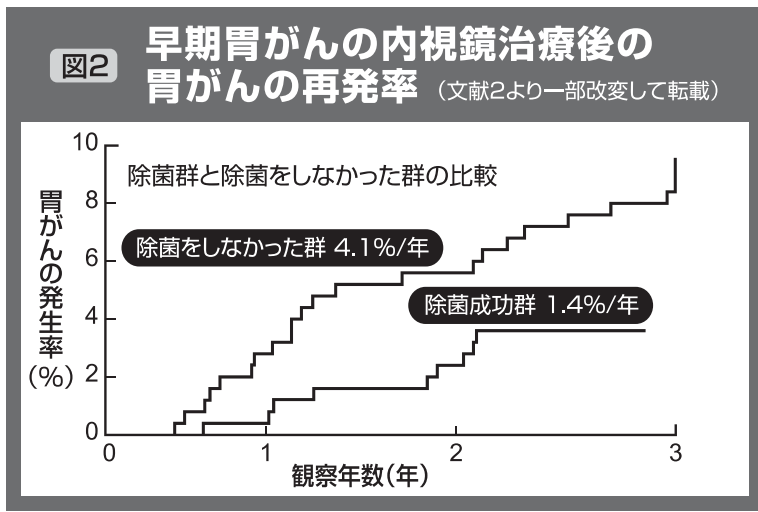
（図1）
では除菌を行えば発症率を抑えられるか、と



いうことについては、胃がんの発症を完全には抑制できないものの、減らすことが可能ということが証明されました。（図2）
当院の過去2年間の検討でも、除菌療法を過去に受けた患者さんでは、潰瘍の再発はなく、大部分の方で胃粘膜の状態がほぼ正常の状態にまで回復していることが観察されました。また除菌療法を受けた群からは現時点では胃がんを新たに発症した患者さんはみられていません。

当院の現在の取り組み

慢性胃炎はほとんどが無症状であるため、慢



性胃炎に罹患しているかどうかを判定することが現在ほっとも難しいことと考えられます。当院では悪性疾患の診断目的で内視鏡やX線検査を行っていますが慢性胃炎の所見が認められる方には、ピロリ菌感染の可能性、更には除菌についても説明を行うように努めています。今年からピロリ菌による慢性胃炎は保険で除菌治療が可能になりました。過去に胃炎・胃が荒れている等、の説明を受けた方は一度ご相談下さい。

参考文献

- 1) 上村直美、他：
Helicobacter pyloriと胃癌—背景胃粘膜の立場から：萎縮性胃炎・腸上皮化生。胃と腸 42:937-945,2007
- 2) 加藤元嗣、他：
Helicobacter pyloriと胃癌—除菌による胃がんの予防は可能か。胃と腸 44:1402-1411,2009